

日本国際情報学会
国際開発研究部会 2023年度 第2回 研究報告会 報告書

国際開発研究部会 2023年度第2回研究報告会を下記のとおり開催しました。

記

1 部会目的

国際開発課題を経済開発と社会開発の両面から捉えて、ミレニアム開発目標(MDGs)や持続可能な開発目標(SDGs)を含む国際開発枠組み及び人間の安全保障・人権・社会開発のような開発理念をアプローチし、そして貿易と開発、技術移転・技術開発の促進、産業集積と地域経済発展、貿易障壁の削減の諸課題を経済学的な視点から理論・実証・政策の側面から研究する。

2 開催日時

2023年(令和5年)9月23日(土) 15時00分～17時30分

3 開催会場

日本大学通信教育部1号館51教室(対面)とZoom(オンライン開催)ー同時開催ー

4 研究報告会〔各報告25分、質疑応答15分〕 (敬称略)

(1) 開会挨拶：陸 亦群 国際開発研究部会長・日本大学経済学部教授



今回も対面とZOOMのハイブリッド開催とした。また、今回は所用でZOOM参加となったが、こうした多様な参加ができたのも併用開催の効果だと思う。

短い時間ではありますが、活発な議論をお願いしたい。

(2) 研究報告会〔各報告25分、質疑応答15分〕 (敬称略)

司会 田中 隆 金城学園

第1報告 (15:05~15:45)

【対面】

報告者：関 正明 日本大学大学院総合社会情報研究科前期修了

テーマ「訪日外国人旅行者の利用するデジタル地域通貨と地域活性化に関する一考察」



地域通貨・デジタル地域通貨が多言語対応を図ることで、訪日外国人旅行者の利便性向上を促せるか考察した。

第2報告 (15:50~16:40)

【対面】

報告者：吉澤 幸夫 日本大学大学院総合社会情報研究科後期課程

テーマ「行政データからみる指定管理者制度の一考察」



指定管理者制度は、NPMの行政手法を具体化した官民連携(Public Private Partnership)の一形態であるため、NPMの特徴である市場メカニズムを可能な限り活用する点に着目し、モニタリング、インセンティブの付与、リスク分担、制裁の4点に絞って検証し、不十分な点を指摘した。

第3報告（16：45～17：25）

【対面】

報告者：加藤 量子 日本大学大学院総合社会情報研究科前期修了
テーマ「地域の特性を生かしたDMOの構築と発展」



観光地域づくり法人「DMO」の役割に着目し、岐阜県内の3団体の活動状況の検証を通じて、観光の付加価値づくりで大きな役割を果たしていると考察した。一方、様々な課題も抱えていると指摘した。

(3) 閉会挨拶：齋藤 高志 国際開発研究部会幹事



本日3本の報告で研究成果が報告されたが、議論によって残された課題も深まったと思う。引き続き研究を重ねていきましょう。

5 参加者

18名（会場12名、ZOOM6名）

